

初年次学生を対象とするコンピュータ演習授業の実践を通じた 自学自習型テキストの開発

西村 明也、皆川 武
(社会学部メディア表現学科)

Development of a Self-Study Material on Computer Exercise for First-Year Students

Akinari NISHIMURA, Takeshi MINAGAWA

(Department of Media Presentation, Faculty of Studies on Contemporary Society)

本稿は、初年次学生にデジタル表現技法を指導する上で有効な教材開発を目的とする。目白大学社会学部メディア表現学科開講科目「メディア表現技法1」を事例とし、テキストの特徴と使用方法について報告する。

当該科目では1教員あたり最大44名の学生を同時に担当すること、学生により能力や習熟度に差があることから、自学自習型テキストの活用が不可欠である。作成にあたり、OS等の更新に即した図像・表記の逐次修正、習熟度に応じた課題提示、教科書との連携に特に配慮している。

現段階での指導方法およびテキストの有効性を検証するため、2017年度春学期の受講生を対象にアンケート調査を実施した。その結果、学生が自認する理解度とテストの点数が比例していたことから、学生が自身の理解度を的確に把握していると判断できた。全体の8割は技術向上の実感を得ていたが、自習中の問題解決や課題の量・レベルに関して困難を感じる例も確認されたため、追跡調査による原因解明が今後の課題である。

キーワード：教材開発、コンピュータ演習、自学自習型テキスト、初年次教育、メディア表現

はじめに

本稿は、初年次学生を対象としたデジタル表現の技法とそれを用いた制作物の発信方法を指導する上で有効な教材の開発を目的とする。事例として、目白大学社会学部メディア表現学科にて開講されている「メディア表現技法1」を取り上げる。「メディア表現技法1」はコンピュータによる制作を学ぶ導入として平成25(2013)年度に開設された、1年次春学期必修の専門教育科目である¹。この科目は、コンピュータを利用した基礎的なデジタル表現技法や情報発信の方法および基礎知識を段階的に学習することを目標としているが【表1】、このような演習科目では学生間の操作能力の差に開きがあること

が前提となる。この点は教材開発に関する先行研究においても、円滑に演習を実施する上で解決すべき問題としてしばしば言及されてきた(皆川ほか, 1997等)。加えて、当該科目の開講時に比べると、総じて学生はタッチパネルを問題なく操作できるが、コンピュータでのキーボード操作には不慣れな傾向が顕著である。この背景には、ICT教育推進事業によって初等・中等教育現場へのタブレット端末導入が増加したことや、他方でスマートフォンの保有率がフィーチャーフォンを圧倒するようになったことが挙げられるだろう。

これらの状況に対処するため、メディア表現学科ではコンピュータ操作能力の習熟度に応じた自学自習型のテキストの開発を行い、演習を実践してきた。

【表1】平成29(2017)年度「メディア表現技法1」シラバス(抜粋)

授業のねらい	表現のデジタル化によって、あらゆるデータ形式をデジタル編集、蓄積、発表できるマルチメディア表現が可能になり、インターネットによって、様々な形式の情報メディアを統合し、公開できるようになった。このような新しいメディア環境が我々に何をもちたすか、実習を通して、新しい表現技法を身につけ、その影響力について考える。
学生の学習目標	・Macの基本操作やファイル管理、ドキュメント編集等の基礎知識を習得する ・デジタル画像やサウンド編集を含めたコンテンツの作成とHTMLを利用したWeb制作の基礎を身に付ける
授業内容 (スケジュール)	第1回 オリエンテーション 第2回 Mac入門 ・Macの基本操作およびファイル管理等について 第3回 デジタルドキュメント編集 ・WORDを利用したデジタルドキュメント編集の基礎 第4回 画像編集, サウンド編集, 映像(スライドショー)の作成(1) ・デジタルカメラの仕組みと基本操作、カメラアングル、ショットサイズ ・プリプロダクション、絵コンテ作成 第5回 画像編集, サウンド編集, 映像(スライドショー)の作成(2) ・画像フォーマットの種類、写真撮影、画像編集 第6回 画像編集, サウンド編集, 映像(スライドショー)の作成(3) ・サウンド編集の基本用語、音声フォーマットの種類 ・音楽制作ソフトの基本操作 第7回 画像編集, サウンド編集, 映像(スライドショー)の作成(4) ・音楽制作ソフトを利用したオリジナルBGM作成 第8回 画像編集, サウンド編集, 映像(スライドショー)の作成(5) ・画像と音楽を組み合わせた映像(スライドショー)の作成 第9回 Web制作の基礎(1) ・Webページの仕組み、基本的なHTMLタグの利用 第10回 Web制作の基礎(2) ・基本的なHTMLタグを利用したWebページの作成 ・コンピュータ上の色の表現および文字コード、画像形式について 第11回 Web制作の基礎(3) ・tableタグを利用した表の作成 第12回 Web制作の基礎(4) ・リンクと相対パス、絶対パス 第13回 Web制作の基礎(5) ・全体のレイアウトと複数のWebページの作成 第14回 映像作品のWeb公開 ・完成させた映像(スライドショー)作品を紹介するWebページの作成 第15回 総まとめ

以降では、平成29(2017)年度の当該科目における自学自習型テキストを利用した演習の実践とその評価について報告する。

1. 授業実施報告

(1) 「メディア表現技法1」の概要

具体的な指導内容とその評価についての考察に先立ち、本科目で使用する教室・端末等の設備ならびに授業概要に関する情報を示す。授業が開講されるのは学科が運営する「マルチメディア1」「マルチメディア2」という隣り合った2つの演習室で、各部屋には学習者が演習に利用するためのiMacが44台ずつ備え付けられている。これらの演習室では、中央のパーティションを開放してAV設備を連動することにより、最大88名の学習者がひとり1台

ずつの端末を使用して同時受講することが可能となっている。そのため、当該科目では一学年を学籍番号順に4グループに分割し、それぞれの演習室で同時に2グループずつ各1名の教員が担当して授業を行い、状況に応じてパーティションを開放して2名の教員で合同授業を進めている²。授業の概要はシラバスの一部を転載するので【表1】を参照されたい。

本科目は開設に先立つ予備調査(皆川ほか, 2013)を基に、マルチメディア検定の資格取得との連動を図っている。そのため、検定実施団体のCG-ARTS協会が検定対応入門書として刊行した、西原清一監修(2016)『第三版入門マルチメディア:ITで変わるライフスタイル』を教科書として指定し、演習に必要な知識を確認するために用いている。授業は主に担当教員による独自開発テキストにしたがって、

【表2】テキスト目次一覧

H29 年度 メディア表現技法 1 Lesson 一覧

Lesson.1	Mac 入門	Lesson.5-1	Web ページを作ろう [はじめの一步]
Step.1	Mac の装置や基本用語を確認しよう	Step.1	Web ページのソースを見よう
Step.2	起動→ログイン→パスワード変更→システム終了	Step.2	はじめての Web ページ
Step.3	ホームと Share の構成、利用方法	課題 1	簡単な Web ページを作成しよう
Step.4	アプリケーションと Dock	Lesson.5-2	Web ページを作ろう [文書の構造化]
Step.5	Web ブラウザ	Step.1	HTML の構造を確認しよう
Step.6	システム環境設定	Step.2	全体の文書構造を設計する
Step.7	Windows を起動する	Step.3	見出しを設定する
Step.8	Windows から Share やホームにアクセスする	Step.4	段落を設定する
Step.9	Windows を終了する	Step.5	リスト表示を設定する
Step.10	学生生活に関連する Web サイト	Step.6	画像を表示する
Lesson.2	ファイル管理	Step.7	横罫線を表示する
Step.1	基本的なファイル、フォルダ管理	Step.8	リンク リンク リンク!
課題 1	新規フォルダの作成、ファイルの保存、課題提出	課題 1	テキスト文書を Web ページ化しよう
課題 2	課題ファイルの保存、課題提出	Lesson.5-3	Web ページを作ろう [テーブル編]
Step.2	ショートカットキーと文書レイアウト	Step.1	表 (テーブル) を作成する
課題 3	ショートカットキーとカット&ペースト	課題 1	テーブルに行を追加しよう
Step.3	Windows を利用したファイル管理	課題 2	時間割表 Web ページをつくる
課題 4	Windows を利用したファイル管理	Lesson.5-4	ファイルの場所を階層的に理解しよう
課題 5	課題ファイルの保存、課題提出	Step.1	ファイルを階層的に見てみる
Lesson.3-1	静止画を使った映像作品の制作 [写真撮影編]	Step.2	相対パスでファイルを指定する
Step1	スマートデバイスを利用した写真撮影	Step.3	少し複雑なパスでファイルを指定する
Step2	“写真”アプリケーションの基本: 写真の読み込みと整理	課題 1	全てのファイルのリンクを完成させよう
Step3	“写真”アプリケーションを利用した画像編集	Lesson.5-5	Web ページを作ろう [レイアウト編]
Lesson.3-2	静止画を使った映像作品の制作 [iMovie 編]	課題 1	テーブルを利用してレイアウトしよう
Step1	写真を並べて編集する	Lesson.6-1	Web ページを公開しよう (準備: 仮作成)
Step2	タイトルを入れる	課題 1	作成した課題を公開するための準備をしよう
Step3	音楽素材を追加する	Lesson.6-2	Web ページを公開しよう (Web サーバへのアップロード)
Step4	動画を書き出す	最終課題	完成させた映像作品を Web ページで公開しよう
Lesson.4	GarageBand	最終提出	完成した Web ページをサーバに保存する
Step.1	GarageBand の起動		
Step.2	音楽の基礎知識		
Step.3	GarageBand での作曲		
Step.4	レートやファイル形式の違いを理解しよう		
総合課題 1	映像作品を作ろう		

教員の解説と学生の作業を交互に行うことで進められる。テキストの内容と作成趣旨について、次節で詳述する。

(2) テキストの概要・構成

本科目では、1 人の教員が同時に多人数を担当する科目の性質や、学習者の習熟度に関きがあることを考慮し、自学自習型テキストを開発・使用している。内容は平成 24 年 (2012) 年度まで開講されていた先行科目「マルチメディア入門」から部分的に引き継いでいる³が、設備の更新や使用ソフトウェアの変更などを踏まえ、適宜改変を加えてきた。段階毎に Lesson.1 ~ 6 とし、更に子番号を振って内容を細かく分類し、授業の進度に応じて必要な箇所を都度配布している (【表 2】のテキスト目次一覧を参照)。全体は、基礎 (Lesson.1 ~ 2)、動画制作 (Lesson.3 ~ 4)、Web ページ作成 (Lesson.5)、最

終課題 (Lesson.6) のパートに分けることができる。各授業回に用いるテキストは、シラバスにおける第 1 ~ 3 回目が基礎、第 4 ~ 8 回目が動画制作、第 9 ~ 13 回目が Web ページ作成、第 14 ~ 15 回目が最終課題となっているが、進度により調整を行っている。

レッスンの内容により例外はあるが、概ね共通して作業のワークフローや基礎知識・用語についての解説がテキスト全体の大部分を占めており、最後に各単元の理解度を確認するための自習課題を示している。各パートの概要は以下のとおりである。

(i) 基礎 Lesson.1 ~ Lesson.2

電源の入れ方からフォルダ操作について学習する。Mac OS のユーザインタフェースに初めて触れる学習者も多く、また本学科が設置するファイルサーバの使用に慣れることを目的としている。課題

として Microsoft Office を利用した初歩的な文書作成を複数行うほか、ファイルサーバを通じた配付資料の受け取りから課題提出までのプロセスを経験させる。

(ii) 動画制作 Lesson.3 ~ Lesson.4

Lesson.3 ~ 4 の各單元には、それぞれ画像、動画、音声ファイルを用いた演習が含まれているが、最終的には写真 / 画像ファイルと音楽 / 音声ファイルを組み合わせた動画作品を制作するという目的を持った、一貫したレッスンとなっている⁴。ソフトウェアは Mac OS にプリインストールされているか、アップル社が無料配布している初心者向けの製品を使用している。

各単元の序盤では、テキストに記された手順と同一の操作を行い練習用の課題を制作しながら、ファイル形式に関する基礎知識や使用ソフトウェアのユーザインタフェースを操作する方法を学ぶ。一連の制作手順を習得後、応用的な課題として、各自が設定したテーマに沿って作品を制作する。

(iii) Web ページ作成 Lesson.5

Lesson.5 は、HTML タグを使った Web ページ制作の基礎的な演習となっており、Lesson.5-1 ~ 5-5 までの段階的に設定されたテーマに基づいて、HTML の基本構造の学習から始まり、テーブルを使用したページレイアウトに至るまでを学習する。各テキストの序盤で文書構造、タグ、ファイルの参照といった基礎知識と HTML 言語の使用方法などを学んだのち、完成イメージ図の画像を頼りにタグを記述して Web ページを完成させる。

(iv) 最終課題 Lesson.6

本科目の最終課題として設定されているのは、Lesson.3 ~ 4 で制作した動画と、Lesson.5 で作成した課題を1つの Web ページにまとめ、学内向けに公開するという総合的な内容である。Lesson.6-1 では、最終課題として公開する Web ページの制作が課題として設定されている。基本的には Lesson.5 までに習得済の知識・技術を使って取り組む必要があるため、Lesson.6-1 は Lesson.5 の総括的な位置づけである。Lesson.6-2 では、学科で設置している授

業用の Web サーバに、データをアップロードする。授業用の Web サーバは学内からのみアクセスできるものであるが、学習者同士が互いの作品を閲覧できるような状態に置くことで、単に情報を編集・蓄積するだけでなく、公開するというプロセスを擬似体験できる。

(3) 自学自習を促す工夫

本節では自学自習を支援するための工夫について、特に OS 等の更新に即した図像・表記の逐次修正、習熟度に応じた課題提示、教科書との連携の3点から述べる。

(i) 図解の多用・OS や応用ソフトウェアの更新への対応

本学科では演習用コンピュータを常に新しい制作環境に対応させるため、OS や応用ソフトウェアのバージョンを定期的に上げている。コンピュータ関連のテキストでは、操作画面のキャプチャ画像で操作箇所や設定の確認箇所を示すことは一般的であるが、流通しているソフトウェアの多くはバージョンが変わる度にユーザインタフェースが変更されることが少なくなく、テキストの図と実際の操作画面に不一致が生じることは学習の妨げに繋がる。【図1】のように、本テキストでは、変更が必要な図や表記を毎年更新することでこれに対処している。

(ii) 習熟度に応じた課題

授業進行上の問題として、習熟度が異なる学習者が同一の課題を行う場合に生じる、作業に掛かる時間の差が挙げられるため、本テキストでは習熟度に応じた課題を設定している。例えば、Web ページを作成する課題では、学習内容に応じた必要最低限の要件は決めているものの、Web ページの構成要素の大きさ、背景色や文字色など全体のデザインについては学習者自身に考えさせる文言があり、時間的余裕のある学習者は様々なデザインを試し、完成度を高めることができる。動画を制作する課題においても、絵コンテを使った企画・構成から写真撮影・音楽制作・動画制作までを学習者一人ひとりが、動画の長さや使用する写真の枚数など決められた諸条件の中で自由に制作する内容に設定することで、自発的な学びを促すようにしている。

(iii) 教科書の関連項目への誘導

本科目のシラバスにあるとおり、評価方法は「課題の提出（50%）と、授業内容や教科書の理解度を問う小テスト（50%）」であり、主に演習に必要な知識や関連用語に関するテストを授業期間中に行っている。このため、テキストで特に重要な用語等が初出する箇所に、「チェックマーク」という【図1】の点線で囲んだ部分にあるアイコンを付し、さらに教科書「入門マルチメディア」の参照すべき章・項目とそのページ数を示している⁵。特に解説が必要な項目については授業時間中に教員が取り上げる場合もあるが、学習者には自主的に教科書を参照して補完的な学習を促す指導を行い、その内容を「小テスト」「確認テスト」において出題し、学習者の内容理解の把握と評価に用いている。

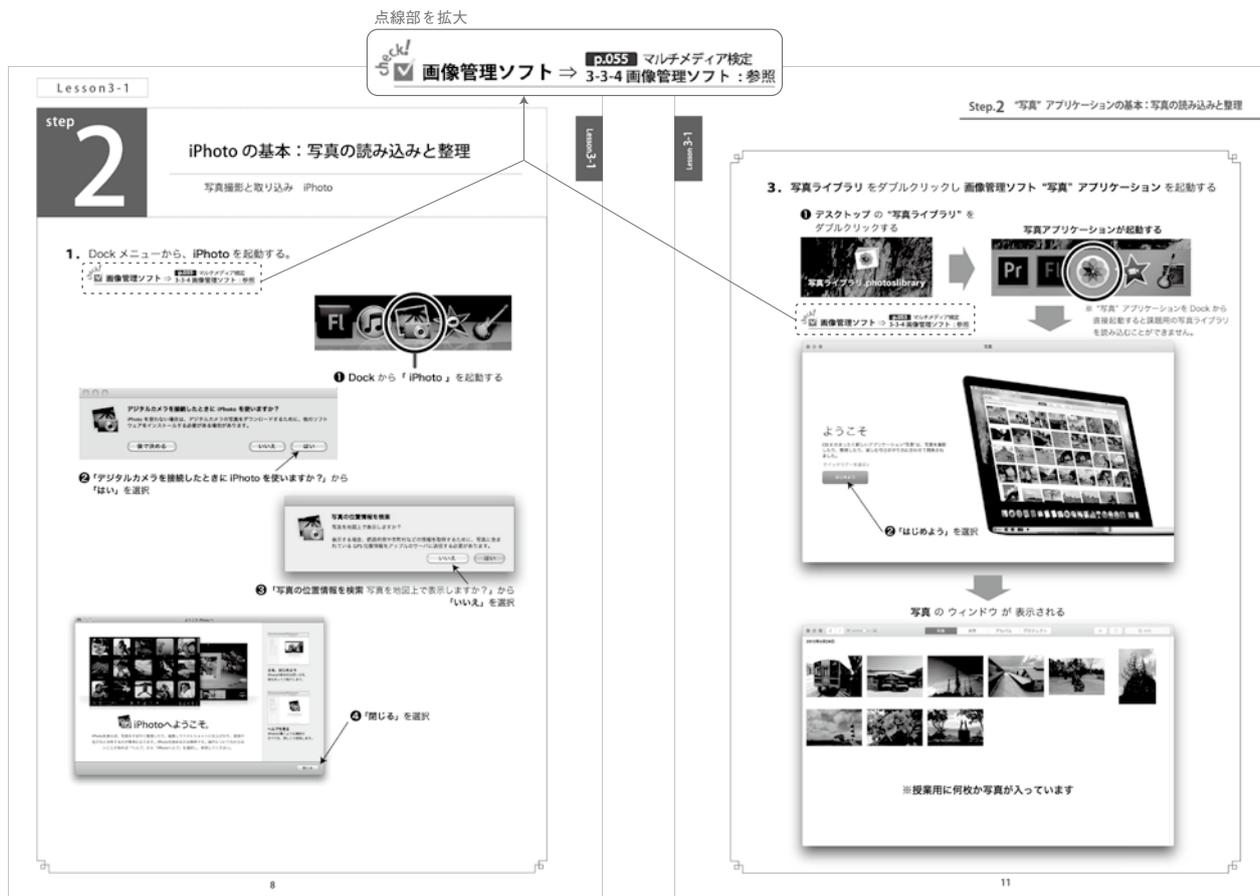
第15回目の「確認テスト」の際に実施していた自由記述式のコメントだけであった。学習者の授業やテキストに対する評価を数値化し、教育方法や使用するテキストについての再検討に繋げるため、平成29（2017）年7月24日「メディア表現技法1」の第15回目授業時間内で演習内容およびテキストに関するアンケート調査を実施した。対象者はメディア表現学科1年生および編入学の3年生で⁶、有効回答数は140であった。なお、演習の理解度と成績の相関などを調査する都合上、本アンケートは記名式としたが、実施時には成績評価とは無関係である旨を説明した。また、アンケートは成績評価に関わる確認テストに先立って実施されたため、学生は出題内容および自身の得点について未確認の状態アンケートに回答したことを付記しておく。

2. 授業評価の結果と今後の課題

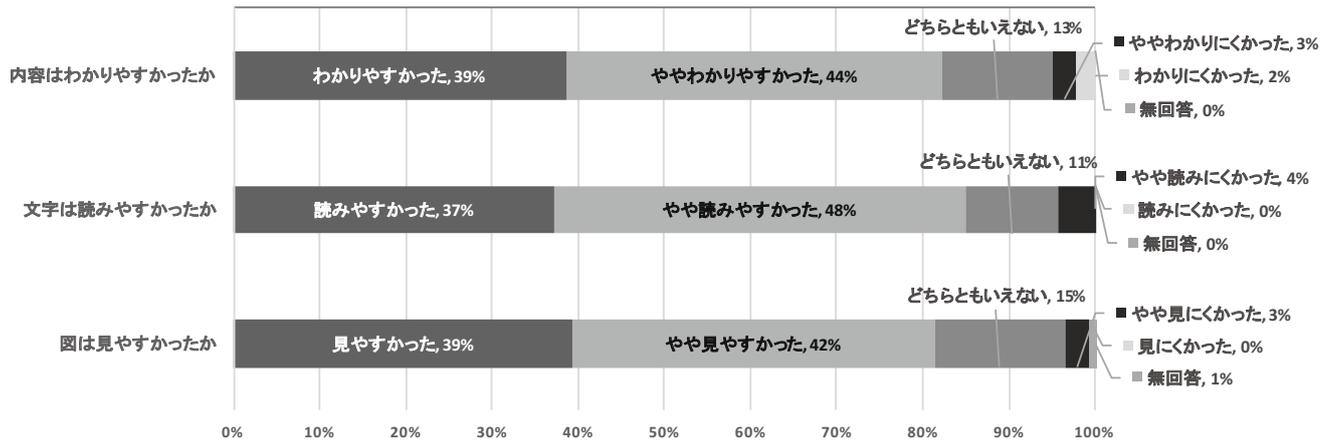
これまで、授業についての主なフィードバックは、

(1) テキストの総合評価

テキストの全体的な印象については、各項目について5段階評価で回答させた【図2】。「内容のわか



【図1】平成26年（2014）年度（左）と平成29（2017）年度（右）の同一内容を解説するページの比較
点線で囲んだ部分が教科書の関連項目への誘導を示すチェックマーク



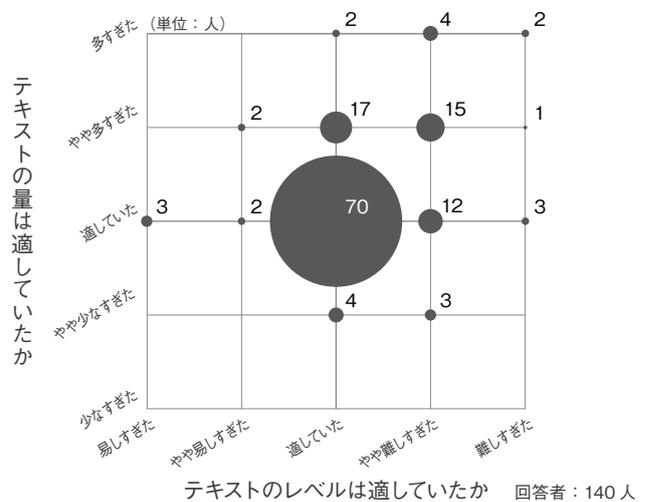
【図2】テキストの総合評価についてのアンケート調査結果

りやすさ」を問う項目では「わかりやすかった」「少しわかりやすかった」という回答が合わせて83%、一方で「少しわかりにくかった」「わかりにくかった」という回答は合わせて5%であったことから、概ね学習内容の理解に有効であったことが示された。テキストに関して改善案・感想を記入する自由記述欄には、「一人でも課題ができた」「授業が難しかったが教材があったのでできた」といったような肯定的な記述が見られた点にもその有効性があらわれていると言える。他方で「課題が自力でできない」「より細かい説明が必要」といった指摘も散見されたが、問題箇所の特特定とテキスト内容の再検討には追跡調査が必要である。

図解に力を置いている本テキストで重要となる、「文字の読みやすさ」「図の見やすさ」についても「読みやすかった」「やや読みやすかった」が85%、「見やすかった」「やや見やすかった」が81%と概ね高い評価であった。しかし(文字が)「やや読みにくかった」が4%、(図が)「やや見にくかった」が3%、また自由記述欄にも「文字が潰れていた」「図がわかりにくかった」といった記述も見られることから、輪転機の印刷に耐えられるようフォントサイズや図の加工など、改善が必要である。

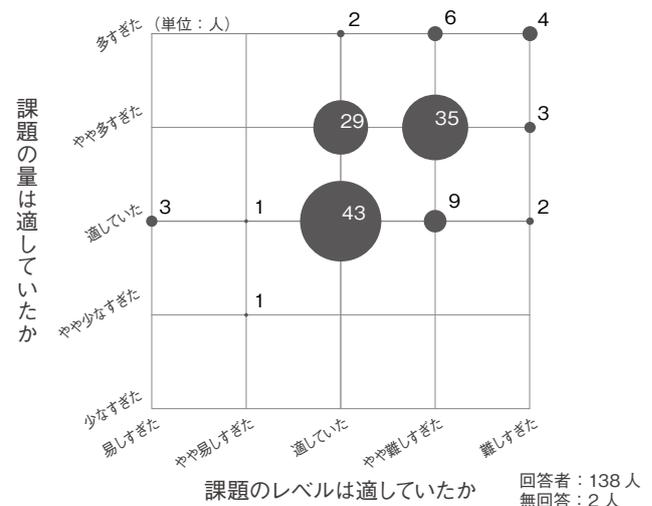
(2) テキストや課題の量・レベル

次にテキストや課題の量やレベルが、習熟度に応じていたかを考察したい。【図3】と【図4】はテキストおよび課題について、量とレベルをそれぞれ5段階(量:「多すぎた」「やや多すぎた」「適していた」



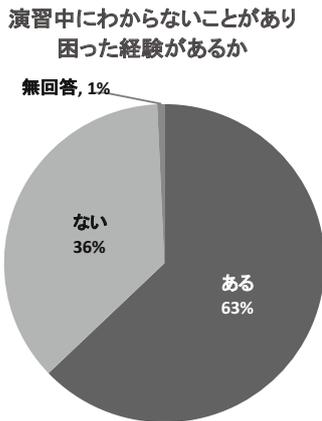
テキストのレベルは適していたか 回答者：140人

【図3】テキストの量とレベルについてのアンケート調査結果

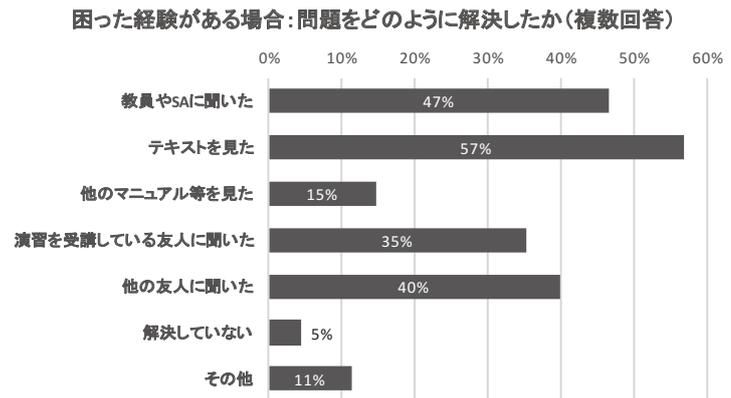


課題のレベルは適していたか 回答者：138人 無回答：2人

【図4】課題の量とレベルについてのアンケート調査結果



【図5】 演習中の困った経験の有無についてのアンケート調査結果 (左)



【図6】 問題の解決方法についてのアンケート調査結果 (右)

「やや少なすぎた」「少なすぎた」、レベル:「難しすぎた」「やや難しすぎた」「適していた」「やや易すぎた」「易すぎた」) で回答させたものを、縦軸が量、横軸がレベルの分布図にまとめたものである。交差した点にある丸印の脇に書かれた数字は回答人数を表しており、丸の大きさは回答人数の多さを視覚化したものである。

テキストについては半数の70名が量もレベルも「適していた」と答えているが、中央より右上に向かって分布していることから、全体的には量が「やや多すぎた」、レベルが「やや難しすぎた」、あるいはその両方に当てはまると回答している傾向にあることがわかる。

課題についても、量・レベル共に「適していた」という回答が43人と最も多いが、次いで35人が量は「やや多すぎた」、またレベルが「やや難しすぎた」、29人がレベルは「適していた」ものの量が「やや多すぎた」と答えており、こちらもやはり右上方向により多く分布していることがわかる。

その一方で、テキストと課題の双方で量は「適していた」が、レベルが「易しすぎた」、「やや易しすぎた」という回答が少数ながら存在する。こうした回答者からはテキストに関する改善案・感想として「より難しくしてほしい」「追加の課題を出してほしい」といった記述がみられた。

課題をより幅広いレベルの学習者に対応させるなど、今後の検討が必要である。

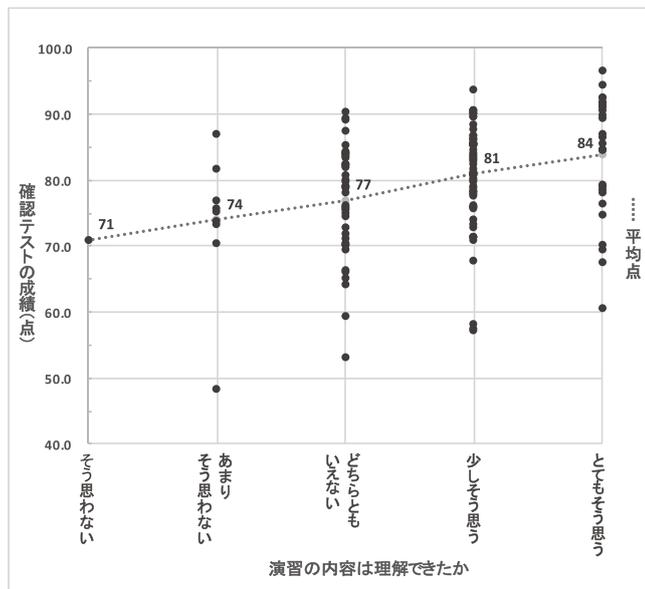
(3) 学習中に生じた問題の解決方法

本科目では自学自習型テキストを用いながらも、教員に加え各教室に1人配置されたチューデント・アシスタント(以降:SA)が演習の支援を行っており、教員の解説やテキストを参照しても理解ができない問題については、その都度質問をするよう指導している。そこで、演習中に生じた問題の解決方法について調査した。

「演習中に困った経験があるか」という質問に対し、88人・63%が「ある」と答えている【図5】。このうち、問題をどのように解決したのか、「教員やSAに聞いた」「テキストを見た」「他のマニュアルを見た」「演習を受講している友人に聞いた」「他の友人に聞いた」「解決していない」「その他」7つの選択肢から該当するものを複数回答させた【図6】。最も多かったのが「テキストを見た」(57%)であったが、「テキストを見た」と回答した者のうち、「テキストを見た」ことでのみ解決に至ったのは僅かに3人であった。次いで「教員やSAに聞いた」(47%)、「他の友人に聞いた」(40%)、「演習を受講している友人に聞いた」(35%)など、テキストの参照と並行して誰かに尋ねたことで解決に至ったという答えが多い結果となった。問題解決も演習の一環と考える本科目においては、この結果自体は想定内であったが、「解決していない」ケースが5%あることに関しては、学生とのコミュニケーションを図る機会を増やすなどして対応したい。

(4) 学習者の理解度の自己認識とテスト成績の関連

本科目では「小テスト」を数度実施するが、その中でも第15回目に実施する「確認テスト」は、半期の学習内容の理解度を測る上で、提出課題と共に重視している。確認テストの成績とアンケートの「演習の内容は理解できたか」を問う項目を比較してみると、【図7】のとおり学習者が自認する演習の理解度に比例して、確認テストの点数⁷の平均点も高くなっている。確認テストの出題内容は本科目のねらいや学習目標と密接に関係していることから、この相関関係は学習者が自身の理解度を的確に認知していると示すと同時に、本アンケート調査の精度を示す証左になるだろう。さらに、ねらいや学習目標への到達度合いを引き上げるためには、学習者自身が認知している「理解できなかった点」を解消していく必要があるとも言えよう。



【図7】 演習内容の理解度ごとの確認テストの点数分布

むすびにかえて

「メディア表現技法1」における自学自習型テキストの開発は5年目を迎え、本学科の専門教育に必要な基礎的な能力を形成する本科目の実施にとって欠かせないものとなっている。今回のアンケート調査結果から、現在使用しているテキストには一定の有効性が認められたが、様々な改善の余地が残されていることも判明した。

特にテキストや課題を「量が多い」「難しい」と

感じている傾向にあることが明らかになり、学習者の幅広い習熟度に十分には対応できているとは言い難い状況である。その一方で、「テキスト全体を通して難しいという感じがしたが、テキストによって理解できた」「内容が難しくてもテキストを見れば自分で進めることができた」「難しく大変だったけれど教材があったので何とかできた」といったように、難易度の高い問題にテキストを使って取り組み解決するというプロセスを経験することができたという回答もあることから、テキストや課題の「量を減らす」「難易度を下げる」ことが必ずしも学習効果の向上に繋がるわけではないと言えよう。それを裏付けるように、「あなた自身の技術は向上したと思うか」という質問に対する回答では「そう思わない」「全くそう思わない」が合わせて4%であったのに対し、「とてもそう思う」「そう思う」が80.8%という結果であり、全体の8割が技術向上の実感を得ている。今後は学習者が苦手とする箇所の特定を急ぐとともに、習熟度を高めるよう内容の改善に着手したい。

《参考文献》

加藤さこ（他）（2016）『第三版入門マルチメディアITで変わるライフスタイル』西原清一監修，公益財団法人画像情報教育振興協会（CG-ARTS協会）

皆川武・永野和男（1997）「オープンキャンパスシステム実現のためのシステム構成と支援ツールの開発（2）—学生のリテラシーの実態とその育成のための自学自習教材パッケージの構成」『日本教育工学会研究報告書』97-6,PP.63-68

皆川武（2002）「基礎段階における情報教育のための自学自習教材の開発—自学自習テキストのWeb化と支援システムの開発について」『日本教育工学会 第18回大会講演論文集』,PP.475-476

皆川武（2005）「段階的なホームページ制作演習のための自学自習教材の開発」『第31回全日本教育工学研究協議会全国大会 研究発表論文集』,CD-ROM 媒体，論文番号 F-10

皆川武（2009）「文系大学生を対象とした入学時におけるコンピュータに関する操作能力の実態調

査』『第35回全日本教育工学研究協議会全国大会研究発表論文集』CD-ROM 媒体

皆川武・西村明也・西尾典洋・溝尻真也(2015)「メディア表現学科における科目間の相互連携を取り入れた初年次教育の展開とその課題」『目白大学高等教育研究』第21号,PP.103-112

皆川武・西尾典洋・遠西学・今野貴之・溝尻真也(2013)「CG-ARTS協会認定教育校への加入と資格取得と連動した教材開発と科目の相互連携」『目白大学高等教育研究』第19号,PP.49-57

1 目白大学において平成24(2012)年度までは「マルチメディア入門」という必修半期科目でWebページ構築およびAdobe Illustrator・Photoshopを用いた画像編集を指導していたが、平成25(2013)年度のカリキュラム再編により、Webページ構築と画像・動画・音声ファイル編集の基礎学習を中心とした「メディア表現技法1」と、Illustrator・Photoshopの習得を中心とした「メディア表現技法2」の2科目が後継科目として運営されることとなった。本稿では前者を扱う。なお、「専門教育科目」とは目白大学の教育課程で

学科・専攻ごとに開講している科目群を指す。

2 平成25(2013)年度から平成29(2017)年度までの履修人数の平均は再履修生と編入生を含めて154人で、各教員あたり約39人であった。

3 筆者のうち皆川は、授業担当を継続している。

4 実際の授業においては、Lesson.3-1(写真/画像ファイル)→Lesson.4(音楽/音声ファイル)→Lesson.3-2(動画/動画ファイル)といった順番で、写真と音楽を先に用意し、最終的にそれらを組み合わせて動画作品を制作する。

5 チェックマークは「基礎的な知識を体系的に学習すること」に加え「資格習得を一つの目標とすることにより、授業に於ける学習のモチベーションを高めること」(皆川ほか,2013)が期待できることとして、本科目の開設以来用いられている。

6 再履修者にも同様のアンケートを実施したが、本調査は初めて受講する学習者を対象としているため集計結果に含まないこととした。

7 平成29(2017)年度の確認テストは63点満点で作問されたが、ここでは100点満点換算として表にまとめた。

(受付日:2017年10月31日、受理日2017年12月17日)